

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

09.12.03

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

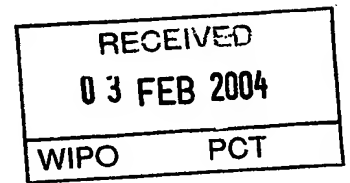
This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日
Date of Application: 2002年12月26日

出 願 番 号
Application Number: 特願2002-378154

[ST. 10/C]: [JP2002-378154]

出 願 人
Applicant(s): 本田技研工業株式会社

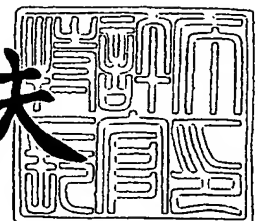


PRIORITY DOCUMENT
SUBMITTED OR TRANSMITTED IN
COMPLIANCE WITH
RULE 17.1(a) OR (b)

2004年 1月16日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

今井康夫



BEST AVAILABLE COPY

【書類名】 特許願
【整理番号】 H102374301
【提出日】 平成14年12月26日
【あて先】 特許庁長官 殿
【国際特許分類】 B60N 2/30

【発明者】

【住所又は居所】 埼玉県和光市中央1丁目4番1号 株式会社本田技術研究所内

【氏名】 須田 浩秀

【発明者】

【住所又は居所】 埼玉県和光市中央1丁目4番1号 株式会社本田技術研究所内

【氏名】 粥見 哲也

【特許出願人】

【識別番号】 000005326

【氏名又は名称】 本田技研工業株式会社

【代理人】

【識別番号】 100067356

【弁理士】

【氏名又は名称】 下田 容一郎

【選任した代理人】

【識別番号】 100094020

【弁理士】

【氏名又は名称】 田宮 寛祉

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 004466

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9723773

【包括委任状番号】 0011844

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 車両用自動回転収納シートシステム

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 自動シートバック前倒し機構と自動シート揺動機構を備え、シートバックとシートクッションを重ね合わせて、シート全体を揺動させて車体のフロア凹部に収納する車両用自動回転シートシステムであり、

前記自動シート揺動機構は、揺動モータを備え、

前向き最後尾シートで、シートバックを前倒ししてシートクッションと重ね、シート全体を後方へ揺動して最後尾シート後方かつテールゲート前のフロア収納凹部へ収納するための操作スイッチを、前記最後尾シートの後方かつ前記テールゲートの開口近傍に配置し、前記操作スイッチのオン状態を維持する場合のみ収納動作を進行させ、揺動始点と終点の間の揺動区間内でシートが停止した場合に所定時間警報を発生させることを特徴とする車両用自動回転収納シートシステム。

【請求項 2】 オートマチックトランスミッションの駐車位置またはパーキングブレーキのオンの時、およびテールゲート解放時のみ、収納動作あるいは復帰動作を実行することを特徴とする請求項 1 記載の車両用自動回転収納シートシステム。

【請求項 3】 前記シートクッションが前記フロアにロックされていないことを警報する警報装置を運転者側に設けることを特徴とする請求項 1 記載の車両用自動回転収納シートシステム。

【請求項 4】 前記警報は、前記フロアに対して着座が可能な角度以内において発生することを特徴とする請求項 3 記載の車両用自動回転収納シートシステム。

【請求項 5】 前記揺動モータのモータ電流値が所定値以上のとき警報を発生することを特徴とする請求項 1 記載の車両用自動回転収納シートシステム。

【請求項 6】 すべりクラッチを前記揺動モータの連結部に設けたことを特徴とする請求項 1 記載の車両用自動回転収納シートシステム。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、車両用自動回転収納シートシステムに関し、特に、収納動作を電動で自動的に行う車両用自動回転収納シートシステムに関するものである。

【0002】

【従来の技術】

車両用のシート、特に、サードシートは、シートバックを前倒しし、シートクッションに重ね合わせ、重ね合わせた状態で、シートクッションを後方に回転させてフロア凹部に収納するものが知られている（例えば、特許文献1）。

【0003】

【特許文献1】

実開平5-40029号公報

【0004】

このシートの収納動作は、先ず、シートバックを前倒しさせて、シートクッションと重ね合わせる。次に、シートバックをシートクッションに当接させたままシートクッションを後方に揺動させ、シートバックおよびシートクッションを凹部に収納し、最後に支持部を折り畳んでいる。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、このようなシートにおいては、シートを収納する際、シートバックをシートクッションに重ね合わせて、重ね合わせたシートクッションとシートバックを後方に回転させるため、シートバックとシートクッションの両方の重量で重くなるため、これを回転させるには作業者の労力が必要である。そこで、作業者の労力を減らすために電動化することが考えられるが、電動化した場合、シートバックとシートクッションを重ねて、狭い車室内を揺動するので、単に電動化するだけでは、荷物等をシートと車体との間に挟んでしまうこともあり、電動化したシートが故障してしまうという問題点がある。

【0006】

本発明の目的は、上記問題を解決するため、シートの収納作業の労力を軽減す

るように電動化したシートでの荷物の挟み込みなどを防止した車両用自動回転収納シートシステムを提供することにある。

【0007】

【課題を解決するための手段および作用】

本発明に係る車両用自動回転収納シートシステムは、上記の目的を達成するために、次のように構成される。

【0008】

第1の車両用自動回転収納シートシステム（請求項1に対応）は、自動シートバック前倒し機構と自動シート揺動機構を備え、シートバックとシートクッションを重ね合わせて、シート全体を揺動させて車体のフロア凹部に収納する車両用自動回転シートシステムであり、自動シート揺動機構は、揺動モータを備え、前向き最後尾シートで、シートバックを前倒ししてシートクッションと重ね、シート全体を後方へ揺動して最後尾シート後方かつテールゲート前のフロア収納凹部へ収納するための操作スイッチを、最後尾シートの後方かつテールゲートの開口近傍に配置し、操作スイッチのオン状態を維持する場合のみ収納動作を進行させ、揺動始点と終点の間の揺動区間内でシートが停止した場合に所定時間警報を発生させることで特徴づけられる。

【0009】

第1の車両用自動回転収納シートシステムによれば、前向き最後尾シートで、シートバックを前倒ししてシートクッションと重ね、シート全体を後方へ揺動して最後尾シート後方かつテールゲート前のフロア収納凹部へ収納するための操作スイッチを、最後尾シートの後方かつテールゲートの開口近傍に配置し、操作スイッチのオン状態を維持する場合のみ収納動作を進行させ、揺動始点と終点の間の揺動区間内でシートが停止した場合に所定時間警報を発生させるため、テールゲートから作業者が電動化したシートの動きを見ながらの操作を義務化させるので、荷物等の挟み込みを防止し、故障を妨げることができる。

【0010】

第2の車両用自動回転収納シートシステム（請求項2に対応）は、上記の構成において、好ましくはオートマチックトランスミッションの駐車位置またはパー

キングブレーキのオンの時、およびテールゲート解放時のみ、収納動作あるいは復帰動作を実行することで特徴づけられる。

【0011】

第2の車両用自動回転収納シートシステムによれば、オートマチックトランスミッションの駐車位置またはパーキングブレーキのオンの時、およびテールゲート解放時のみ、収納動作あるいは復帰動作を実行するため、作業者にテールゲートからの電動シート操作を義務化することができる。

【0012】

第3の車両用自動回転収納シートシステム（請求項3に対応）は、上記の構成において、好ましくはシートクッションがフロアにロックされていないことを警報する警報装置を運転者側に設けることで特徴づけられる。

【0013】

第3の車両用自動回転収納シートシステムによれば、シートクッションがフロアにロックされていないことを警報する警報装置を運転者側に設けるため、運転者がシートクッションがロックされていない状態で走行することを防止することができる。

【0014】

第4の車両用自動回転収納シートシステム（請求項4に対応）は、上記の構成において、好ましくは警報は、フロアに対して着座が可能な角度以内において発生することで特徴づけられる。

【0015】

第4の車両用自動回転収納シートシステムによれば、警報は、フロアに対して着座が可能な角度以内において発生するため、重ねたシートを垂直に立てて、二分割の荷室形成が可能である。この場合シートに乗員が着座できる角度ではないので警報は不要である。

【0016】

第5の車両用自動回転収納シートシステム（請求項5に対応）は、上記の構成において、好ましくは揺動モータのモータ電流値が所定値以上のとき警報が発生することで特徴づけられる。

【0017】

第5の車両用自動回転収納シートシステムによれば、揺動モータのモータ電流値が所定値以上のとき警報を発生するため、電流センサを狭いシートに配置する必要がなくなり、簡素化できる。

【0018】

第6の車両用自動回転収納シートシステム（請求項6に対応）は、上記の構成において、好ましくはすべりクラッチを前記揺動モータの連結部に設けたことで特徴づけられる。

【0019】

第6の車両用自動回転収納シートシステムによれば、すべりクラッチを揺動モータの連結部に設けたため、荷物を挟んだときにすべりクラッチにより揺動モータの回転が緩和されるので、荷物を挟んでも故障を軽減することができる。

【0020】**【発明の実施の形態】**

以下、本発明の好適な実施形態を添付図面に基づいて説明する。

【0021】

図1は、本発明の実施形態に係る車両用自動回転収納シートシステム10の透視図を示したものである。

【0022】

車両用自動回転収納シートシステム10は、シートバック前倒し機構と、シート揺動機構から構成されている。

【0023】

シートバック前倒し機構は、シートバック11またはシートクッション12側に、シートバック11を前倒しさせてシートクッション12と重ね合わせるための機構である。シートバック前倒し機構は、シートバック11のフレームであるシートバックフレーム13に取り付けられたリクライニング機構部14と、リクライニングロックアクチュエータ部15から成っている。

【0024】

シート揺動機構は、車体側に、重ね合わせたシートバック11とシートクッシ

ョン12を揺動させて、シートの後方のフロアに形成された図示しない凹部に収納する機構である。シート揺動機構は、クッションロック機構部16と、収納ユニット機構部17から成っている。

【0025】

シートバック前倒し機構およびシート揺動機構は、シート後方に配置する図示しない操作スイッチにより動作させることができ、シートの収納と復帰を行うことができる。

【0026】

図2は、リクライニング機構部14の構成図である。リクライニング機構部14は、シートバックフレーム13に取り付けられ、スパイラル部18と、リクライニングロック部19と、前倒れ検知スイッチ20と、ロックオン検知スイッチ21と、ロックオフ検知スイッチ22から構成される。

【0027】

スパイラル部18は、シートバック11の前倒れをするようにシートバック11に反力を与えるためのものである。

【0028】

リクライニングロック部19は、シートバック11を前倒れの位置あるいは、倒立位置に固定するためのものであり、ロック部材23とロック部材24とスプリング25とカム部材26とカム部材27からなる。ロック部材23は、歯部28と歯部29の間に円弧部30を有し、また、ロック部材24は、歯部31を有している。

【0029】

前倒れ検知スイッチ20は、シートバック11が前倒れ状態になったときにオンとなり、前倒れ状態ではないときにはオフとなっているものであり、接点32と接点33から成っている。前倒れ状態以外では、接点32と接点33は離れた状態であり、スイッチはオフ状態であり、シートバック11が前倒れ状態に成ったときは、接点32と接点33が接触し、オン状態となり、図示しない電子制御ユニット(ECU)に信号を送る。

【0030】

ロックオン検知スイッチ 21 は、リクライニングがロックされた状態の時オンとなり、ロックされていないときオフとなるものであり、カム部材 27 の端部に取り付けられた接点 34 と接点 35 とからなる。ロックされているときは、ロック部材 23, 24 が歯部 28, 31 同士で噛み合った状態であり、カム部材 26 の端部が上がった状態であるため、接点 34 と接点 35 は接触しており、オン状態となっており、ECU にオン信号を送る。また、ロックされていないときは、ロック部材 23, 24 の歯部は噛み合っておらず、カム部材 26 が下がった状態になっており、接点 34 と接点 35 は、接触していない。それにより、オフ状態となっている。

【0031】

ロックオフ検知スイッチ 22 は、リクライニングがロックされた状態の時オフとなり、ロックされていないときオンとなるものであり、カム部材 27 より上部に取り付けられた接点 36 と接点 37 とからなる。ロックされているときは、ロック部材 23, 24 が歯部同士で噛み合った状態であり、カム部材 27 の端部が上がった状態であるため、接点 36 と接点 37 は接触してない状態であり、オフ状態となっている。また、ロックされていないときは、ロック部材の歯部は噛み合っておらず、カム部材 27 が下がった状態になっており、接点 36 と接点 37 は、接触する。それにより、オン状態となり、ECU にオフ信号を送る。

【0032】

カム部材 27 の端部が上方に引かれるとカム部材 27 が軸 38 を中心に回転し、カム部材 26 を軸 39 を中心に右方に回転する。それにより、ロック部材 24 の歯部が上方に上がり、ロック部材 23 との歯部とのかみ合わせがはずれる。そのとき、スパイラル 18 の反力により、シートバック 11 が前倒れする。ロック部材 24 の歯部がロック部材 23 の円弧部 30 を通り、ロック部材 23 の歯部 29 の位置になったとき、スプリング 25 でロック部材 24 の端部が引っ張られ、それにより、ロック部材 24 の歯部がロック部材 23 の歯部 29 と噛み合いロックされ、前倒し状態となる。

【0033】

図 3 は、リクライニングロックアクチュエータ部 15 の構成図である。リクラ

イニングロックアクチュエータ部 15 は、シートバックフレーム 13 のリクライニング機構部とは反対側に取り付けられ、アクチュエータ 40 と、ロッド 41 とロッド支持 42 とロッドに取り付けられたマグネット 43 と第 2 のロッドに取り付けられたホールセンサ 44, 45 とロッド 41 の端部に取り付けられたケーブル 46 から構成される。

【0034】

アクチュエータ 40 は、ECU からの作動信号が入力されると作動し、ロッド 41 を下降あるいは上昇させる。

【0035】

ロッド 41 は、端部がアクチュエータ 40 に取り付けられ、もう一方の端部にはケーブル 46 が取り付けられ、所定の位置にマグネット 43 が取り付けられている。そして、ロッド支持部 42 により、支持され、上下方向のみに移動するようになっている。

【0036】

マグネット 43 は、ロッド 41 が上下するときにホールセンサ 44, 45 に磁場を与えるためのものである。ホールセンサ 44, 45 は、マグネット 43 からの磁場を感知し、マグネット 43 が通過するときにロッド 41 の位置を検知するためのものである。ケーブル 46 は、ロッド 41 の端部に取り付けられ、シートバックのフレーム 13 に沿ってリクライニング機構部 14 のカム部材 27 の上端部に取り付けられている。

【0037】

ECU からの信号によりアクチュエータ 40 が作動し、ロッド 41 を下げる動作がなされると、ロッド 41 の上端部に取り付けられたケーブル 46 が引っ張られ、それにより、リクライニング機構部 14 のカム部材 27 の端部が引き上げられる。ロッド 41 が下がり、マグネット 43 がホールセンサ 45 の位置の高さに来たとき、マグネット 43 からの磁場によりホールセンサ 45 からの信号が ECU に送られる。また、ECU からの信号によりアクチュエータ 40 が作動し、ロッド 41 を上げる動作がなされると、ロッド 41 の上端部に取り付けられたケーブル 46 がゆるみ、リクライニング機構部 14 のスプリング 25 によりカム部材

27が引き戻される。そして、マグネット43がホールセンサ44の高さの位置に来たとき、マグネット43からの磁場によりホールセンサ44からの信号がECUに送られる。

【0038】

以上で説明したシートバック前倒し機構は、左右の2つのシートバック11R, 11Lに取り付けられている。

【0039】

図4は、シート揺動機構を構成するクッションロック機構部16の斜視図である。クッションロック機構部16は、シートクッション12をフロアに固定するものである。クッションロック機構部16は、シートクッションフレーム12Aに取り付けられたクッションロックアクチュエータ47と、ラチェット48と、ラッチ49とラッチスイッチ50とロックスイッチ51とリリーススイッチ52からなるロック部とフロアに固定されたストライカー53から構成される。

【0040】

クッションロックアクチュエータ47は、シートバック11の前倒れが完了し、ECUにロックオン検知スイッチオン信号が送られたとき、ラチェット48を引くように動作する。また、リリーススイッチ52がオンになったら、ラチェット48を引く動作を停止する。さらに、ラッチスイッチ50オンになったら、ラチェット48を戻すように動作する。

【0041】

ラチェット48は、ラッチ49をロック状態とロックしていない状態にするものであり、クッションロックアクチュエータ47により、ラチェット48の端部が引っ張られると、軸54を中心に回転し、ラチェット48の突出部55がラッチ49から外れ、ラッチ49がロック状態ではなくなる。また、ラッチスイッチ50がオンになるとクッションロックアクチュエータ47によりラチェット48の端部は戻され、軸54を中心に回転する。

【0042】

ラッチ49は、ストライカー53をロックしたり、ロックしていない状態を形成するものである。ラチェット48の突出部55が、ラッチ49の端部56に接

合しているときは、ラッチ 49 は、軸 57 を中心に回転できずロックされた状態であり、シートクッション 12 は固定されている。ラチェット 48 が引っ張られ、ラッチ 49 の端部 56 からラチェット 48 の突出部 55 が外れると、ラッチ 49 は軸 57 の周りで回転可能となる。そして、シートクッション 12 が上方に上がるとストライカー 53 によりラッチ 49 が回転し、ラッチ 49 の凹部 58 からストライカー 53 が外れ、そのとき、ラッチ 49 の突出部 59 によりラッチスイッチ 50 を押すことによりオンにする。

【0043】

ストライカー 53 は、フロアに固定されたものであり、シートクッション 12 が下に下がったとき、ラッチ 49 の凹部 58 に入り、ラッチ 49 がロックされることにより、シートクッション 12 をロックするためのものである。

【0044】

リリーススイッチ 52 は、ラチェット 48 が引かれたときにオンとなり、ラチェット 48 が戻ったときにオフとなる。ラッチスイッチ 50 は、ラッチ 49 がストライカー 53 により回転したときにオンとなる。また、ストライカー 53 がラッチ 49 を押し上げたときにオフとなる。ロックスイッチ 51 は、ラチェット 48 が初期位置に戻ったときにオフとなる。

【0045】

収納ユニット機構部 17 は、図 1 で示すようにギアボックス 60 にモータ 61 とシート回転軸 62 が取り付けられ、そのギアボックス 60 は車室フロアに固定される。モータ 61 が作動すると、ギアボックス 60 内の複数のギアによりモータ 61 の回転が伝達され、シート回転軸 62 が回転し、シート全体をシート回転軸 62 を軸として回転する。

【0046】

図 1 には、また、制御装置とハーネスの位置を示している。制御装置である電子制御ユニット (ECU) 63 はシートクッションフレーム 12A に取り付けられ、ECU 63 からハーネスが接続されており、リクライニング機構部 14 へのリクライニング関連ハーネス 64 とリクライニングロックアクチュエータ部 15 へのバックアクチュエータハーネス 65 とクッションロック関連ハーネス 66 と

モータハーネス 67 とボディハーネス 68 により構成されている。

【0047】

リクライニング関連ハーネス 64 は、前倒れ検知スイッチ 20 とロックオン検知スイッチ 21 とロックオフ検知スイッチ 22 への配線により構成される。バックアクチュエータハーネス 65 は、リクライニングロックアクチュエータ 40 とホールセンサ 44, 45 への配線により構成される。クッションロック関連ハーネス 66 は、クッションロックアクチュエータ 47 とロックスイッチ 51 とリリーススイッチ 52 とラッチスイッチ 50 への配線により構成される。モータハーネス 67 は、モータ 61 への配線であり、また、ボディハーネス 68 は、図示しないバッテリーからの配線である。

【0048】

図 5 は、制御装置について説明するための図である。制御装置は、コントロールユニット (ECU) 63 がその要部を構成していて、同ユニット内のマイクロコンピュータには、入力インタフェースを介してバッテリー 70 からの電源供給用の配線がヒューズ 71, 72, 73 を通して接続されており、また、バッテリー 70 からはイグニッションスイッチ 74 とヒューズ 75 を通して接続されている。また、ワーニングランプ 76、AT シフトポジションスイッチ 77、テールゲートスイッチ 78、シートの起倒動作を行う指令手段であるシート格納/復帰スイッチ (操作スイッチ) 79、左右のリクライニング前倒れスイッチ (前倒れ検知スイッチ) 20R, 20L、右リクライニングロック検知スイッチ (ロックオン検知スイッチ) 21R、右リクライニングロック引き込み検知スイッチ (ロックオフ検知スイッチ) 22R、左リクライニングロック検知スイッチ (ロックオン検知スイッチ) 21L、左リクライニングロック引き込み検知スイッチ (ロックオフ検知スイッチ) 22L、右ラッチロック検知スイッチ (ラッチスイッチ) 50R、右ラッチロック引き込み検知スイッチ (リリーススイッチ) 52R、右ラッチロック解除検知スイッチ (ロックスイッチ) 51R、左ラッチロック検知スイッチ (ラッチスイッチ) 50L、左ラッチロック引き込み検知スイッチ (リリーススイッチ) 52L、左ラッチロック解除検知スイッチ (ロックスイッチ) 51L、シート浮き検出スイッチ 80、ショートカプラ 81 からの信号、アース線

82が接続されている。出力インタフェースを介して収納ユニット17のモータ61と、右リクライニングロックアクチュエータ40R、左リクライニングロックアクチュエータ40L、右ラッチロックアクチュエータ47Rと、左ラッチロックアクチュエータ47Lが接続されている。スイッチ79は格納側にオンすると格納動作を開始させ、復帰側にオンすると復帰動作が開始される。また、ECU63には、収納ユニットのモータ電流を検知するモータ電流検出器83とシートクッションのフロアからの角度を検知するシートクッション位置センサ84が接続されており、さらに、ブザー警報機85とワーニング86が接続されている。また、スイッチ79はシート後方に配置されている。

【0049】

収納ユニット17のモータ61の連結部には図示しないクラッチが設けられており、マイクロコンピュータを介さずに機構をマニュアル作動により操作可能となっている。

【0050】

これら各スイッチやセンサの作動により、マイクロコンピュータが図8～図11、図16に示すフローチャートに従ったプログラムを実行する。

【0051】

図6と図7は、基本動作を示す図である。収納動作は、テールゲートTを開き、使用者Uが操作スイッチ79を収納側を押し続けることにより（図6a）、シートバック11が前倒れした前倒れ状態（図6b）から、シートクッション12とともに回転するシート一体回転をし、収納スペースであるフロア凹部Sに収納するまでの（図6c）一連の動作を電動により行う。また、復帰動作は、テールゲートTを開き、使用者Uが操作スイッチ79の復帰側を押し続けることにより、収納スペースであるフロア凹部Sにシートバック11とシートクッション12が収納された収納状態から（図7a）、シート一体回転をし、シートバック11とシートクッション12が一体となった前倒れ状態までの（図7b）一連の動作を電動により行う。シートバックの戻しは手動で行う。

【0052】

シート回転作動途中にて使用者がスイッチを離した場合、その時点で作動停止

する。

【0053】

シート回転作動途中に過負荷検知が発生した場合、その時点で作動停止し、再度スイッチ操作時、動作可となる。

【0054】

シートの停止範囲が途中の時、ブザーおよびメータ内の警報点灯させることにより、ユーザにクッションがロックされていないことを警報する。

【0055】

次に、図8～図11で示すフローチャートに従って説明する。格納スイッチ79を指で押して同スイッチがオンするとプログラムはスタートし、まず、ATのシフトポジションが駐車位置であるかどうか判断する（ステップST10）。もし、シフトポジションが駐車位置でないときは実行は終了する。シフトポジションが駐車位置のときは、パーキングブレーキが作動しているかどうか判断し（ステップST11）、パーキングブレーキが作動していないときには実行を終了し、パーキングブレーキが作動しているときには、テールゲートセンサ78からの出力を検出し（ステップST12）、テールゲートが開いているかどうか判断する（ステップST13）。もし、テールゲートが開いていないときには、プログラムを終了し、動作を停止する。テールゲートが開いているときには、リクライニングロックアクチュエータ40をケーブル引き方向に制御する（ステップST14）。それにより、リクライニングロックアクチュエータ40がリクライニングロックケーブル46を引く。図12（a）は、そのときのリクライニング機構部14を示し、カム部材27を矢印の方向に引っ張られる。それにより、リクライニングロック19が外れ、スパイラル18の反力によりシートバック11が前倒れを始める（図12（b））。ECU63がロックオフ検知スイッチ22のオンを検知し（ステップST15）、リクライニングロックアクチュエータ40を停止制御する（ステップST16）。ECU63が前倒れ検知スイッチ20のオンを検知し（ステップST17）、リクライニングロックアクチュエータ40をケーブル戻し方向に制御する（ステップST18）。リクライニングロックアクチュエータ40がケーブル46を戻す。ECU63がホールセンサ44のオンを

検知し（ステップ S T 19）、リクライニングロックアクチュエータ 40 を停止制御する（ステップ S T 20）。シートバック 11 が前倒れ完了し、ロックオン検知スイッチ 21 がオンとなる（ステップ S T 21）。それにより、シート回転動作へ移行する。

【0056】

次に、シート回転収納動作について図 10 と図 11 で示すフローチャートと図 13 と図 14 を用いて説明する。まず、図 13 で示すクッションロックの解除を行う。ECU 63 はシートバック 11 が前倒れ完了し、ロックオン検知スイッチ 21 のオンを検知すると、クッションロックアクチュエータ 47 をラチェット引き方向に制御する（ステップ S T 22）。それにより、ラチェット 48 が引かれ、リリーススイッチ 52 がオンとなる（図 14（a））。

【0057】

次に、ECU 63 はリリーススイッチ 52 のオンを検知後（ステップ S T 23）、クッションロックアクチュエータ 47 を停止し（ステップ S T 24）、モータ 61 を収納方向に回転制御する（ステップ S T 25）。それにより、シートが収納方向へ回転する。ラッチ 49 がストライカー 53 により回転しラッチスイッチがオンとなる（図 14（b））。ECU 63 はラッチスイッチ 50 のオンを検知し（ステップ S T 26）、クッションロックアクチュエータ 47 をラチェット戻し方向に制御する（ステップ S T 27）。

【0058】

モータ 61 が作動しているときに、モータ電流検出器 83 の値を検出し、所定値以上かどうか判断する（ステップ S T 28）。もし、モータ電流値が所定値以上の時には、モータ 61 の動作は停止し、警報が発生し（ステップ S T 29）、モータ電流値が所定値より小さいときには、そのままモータ 61 を作動させる。ステップ S T 28 でモータ動作が停止したとき、シートクッション位置センサ 84 による出力を検出する（ステップ S T 30）。もし、その値が図 15 で示すように所定の値（例えば 30°）以下かどうかを判断する（ステップ S T 31）。もし、所定の値以下のときには、ECU 63 から警報ブザー 85 を鳴らす信号が出力され（ステップ S T 32）、例えば 10 回の断続的な警報ブザーになる。ま

た、所定の値より大きいときには、プログラムは終了する。ステップ S T 2 5 の実行によりシートが収納位置まで回転、停止すると、E C U 6 3 はモータ電流値を検出し（ステップ S T 2 8）、モータ負荷増加による電流を検知しシートの回転停止制御する（ステップ S T 2 9）。それにより収納が完了する。以上の動作は、操作スイッチがオンの場合のみ実行され、操作スイッチがオフされると実行は終了する。

【0059】

また、イグニッションスイッチ 7 4 がオンされたとき、E C U 6 3 は動作し、シートクッション位置センサ 8 4 からの出力を検知し、また、ロックスイッチのオンオフを検知し、もし、図 1 5 で示すような所定の値（例えば 3 0 ° 以下）であるならば、あるいは、ロックスイッチがオンでないならば、メータ内のワーニング 8 6 に表示する。それにより、シートクッション 1 2 が確実にロックされていない状態で、ユーザが着座、走行することを避けることができる。

【0060】

次に、収納から前倒し状態への動作を図 1 7 で示すフローチャートと図 1 6 を用いて説明する。E C U 6 3 が復帰スイッチが押されていることを検知し（ステップ S T 4 0）、まず、シフトポジションが駐車位置であるかどうか判断する（ステップ S T 4 1）。もし、シフトポジションが駐車位置でないときは実行は終了する。シフトポジションが駐車位置のときは、パーキングブレーキがオンかどうか判断する（ステップ S T 4 2）。パーキングブレーキがオフのときには、実行を終了する。パーキングブレーキがオンのときには、テールゲートセンサ 7 8 からの出力を検出し（ステップ S T 4 3）、テールゲートが開いているかどうか判断する（ステップ S T 4 4）。もし、テールゲートが開いていないときには、プログラムを終了し、動作を停止する。テールゲートが開いているときには、モータ 6 1 を復帰方向に回転制御する（ステップ S T 4 5）。モータ 6 1 が復帰方向に回転する。このとき、モータ電流値を検出し、モータ電流値が所定値よりも大きいかどうか判断する（ステップ S T 4 6）。もし、モータ電流が所定値以下のときには、そのままモータは動作する（ステップ S T 4 7）。もし、モータ電流値が所定値よりも大きいときには、モータ 6 1 への停止信号が出力される（ス

テップST48)。また、そのとき、警報を発する。それにより、モータ61は停止する。次に、シートクッション位置センサ84の出力を検知し(ステップST49)、シートクッション位置センサ84からの値が図15で示すような所定の値(例えば30°)以下であるかどうか判断する(ステップST50)。所定の値以下であるならば、警報ブザー85への出力信号を出力する(ステップST51)。それにより、警報ブザー85が例えば断続的に10回なる。もし、所定の値より大きいときには、プログラムの実行を終了する。ステップST46を実行し続けることにより、図16(a)の状態から、ストライカー53がラッチ49を押し上げ、ラッチスイッチ50がオフとなる(ステップST52)。ストライカー53がラッチ49を押し上げ、図16(b)で示すようにラチェット48が初期位置に戻り、ロックスイッチ51がオフとなる。ECU63がロックスイッチ51のオフを検知し(ステップST53)、モータの回転を停止制御する(ステップST54)。それにより、前倒れ状態となり、使用者により、シートバック11を倒立させて使用できる状態となる。

【0061】

また、ステップST48を経て終了した後、イグニッションスイッチ74がオンされたとき、ECU63は動作し、シートクッション位置センサ84からの出力を検知し、また、ロックスイッチのオンオフを検知し、もし、ロックスイッチがオフで、シートクッションが図15で示すような所定の値(例えば30°以下)であるならば、メータ内のワーニング86に表示する。それにより、シートクッション12が確実にロックされていない状態で、ユーザが着座、走行することを避けることができる。

【0062】

このように制御装置によって各機構が連続して動作するので、スイッチ79を操作するだけでシートの完全格納と復帰を行えることが可能となる。

【0063】

【発明の効果】

以上の説明で明らかなように本発明によれば、次の効果を奏する。

【0064】

前向き最後尾シートで、シートバックを前倒ししてシートクッションと重ね、シート全体を後方へ揺動して最後尾シート後方かつテールゲート前のフロア収納凹部へ収納するための操作スイッチを、最後尾シートの後方かつテールゲートの開口近傍に配置し、操作スイッチのオン状態を維持する場合のみ収納動作を進行させ、揺動始点と終点の間の揺動区間内でシートが停止した場合に所定時間警報を発生させるため、テールゲートから作業者が電動化したシートの動きを見ながらの操作を義務化させるので、荷物等の挟み込みを防止し、故障を妨げることができる。

【0065】

また、オートマチックトランスミッションの駐車位置またはパーキングブレーキのオンの時、およびテールゲート解放時のみ、収納動作あるいは復帰動作を実行するため、作業者にテールゲートからの電動シート操作を義務化することができる。

【0066】

さらに、シートクッションがフロアにロックされていないことを警報する警報装置を運転者側に設けるため、運転者がシートクッションがロックされていない状態で走行することを防止することができる。

【0067】

また、警報は、フロアに対して着座が可能な角度以内において発生するため、重ねたシートを垂直に立てて、二分割の荷室形成が可能である。この場合シートに乗員が着座できる角度ではないので警報は不要である。

【0068】

さらに、揺動モータのモータ電流値が所定値以上のとき警報を発生するため、電流センサを狭いシートに配置する必要がなくなり、簡素化できる。

【0069】

また、すべりクラッチを揺動モータの連結部に設けたため、荷物を挟んだときにすべりクラッチにより揺動モータの回転が緩和されるので、荷物を挟んでも故障を軽減することができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

本発明の実施形態に係る車載用自動回転収納シートシステムの透視図である。

【図 2】

リクライニング機構部の構成図である。

【図 3】

リクライニングロックアクチュエータ部 15 の構成図である。

【図 4】

シート揺動機構を構成するクッションロック機構の斜視図である。

【図 5】

制御装置の構成図である。

【図 6】

基本動作を示す図である。

【図 7】

基本動作を示す図である。

【図 8】

制御プログラムのフローチャートである。

【図 9】

制御プログラムのフローチャートである。

【図 10】

制御プログラムのフローチャートである。

【図 11】

制御プログラムのフローチャートである。

【図 12】

シートバック前倒れ動作を示す図である。

【図 13】

シート回転収納動作を示す図である。

【図 14】

シート回転収納動作を示す図である。

【図 15】

警報ブザーがなるシートクッションの位置を示す図である。

【図 16】

シートの収納から前倒し状態になるときのラッチ部を示す図である。

【図 17】

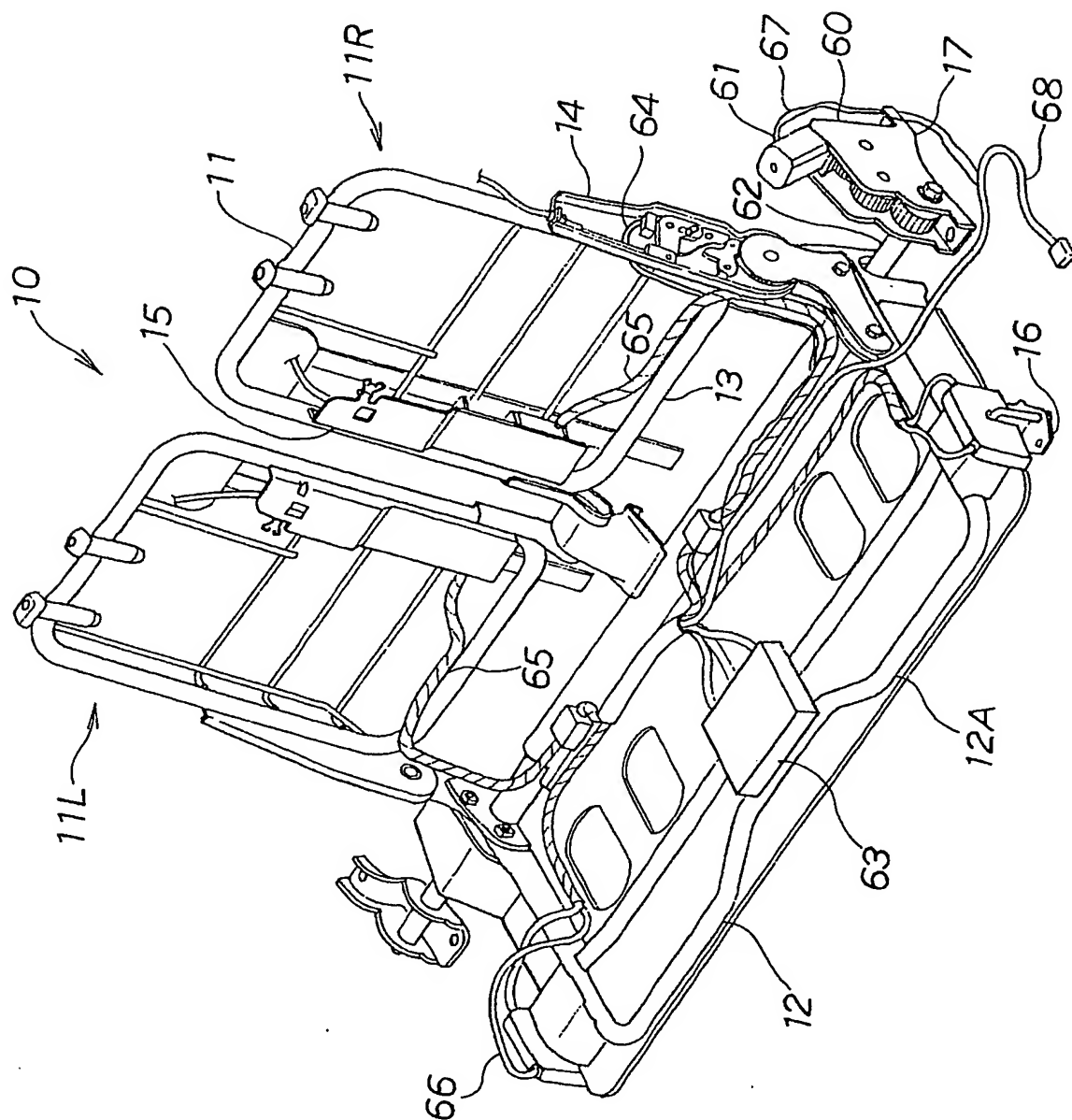
収納から前倒し状態への動作を制御する制御プログラムのフローチャートである。

【符号の説明】

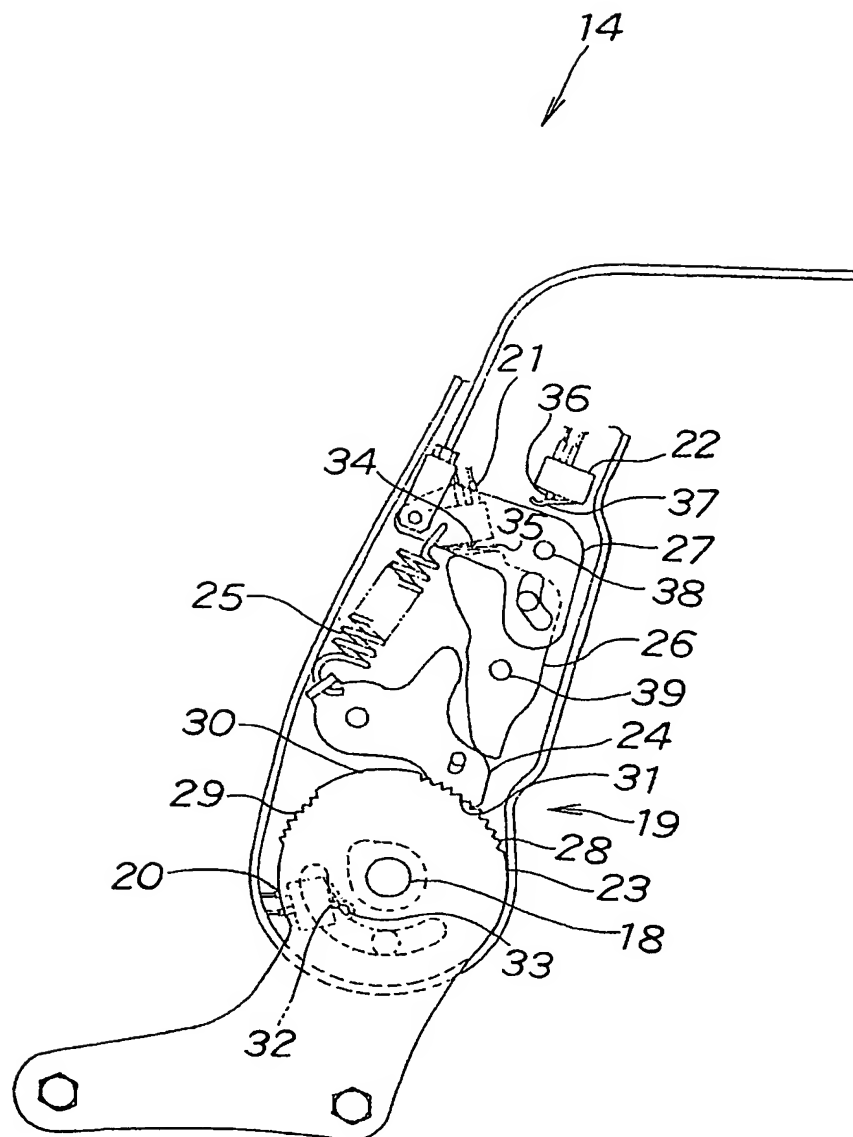
10	車載用自動回転収納シートシステム
11	シートバック
12	シートクッション
13	シートバックフレーム
14	リクライニング機構部
15	リクライニングロックアクチュエータ部
16	クッションロック機構部
17	収納ユニット機構部
18	スパイラル部
20	前倒れ検知スイッチ
21	ロックオン検知スイッチ
22	ロックオフ検知スイッチ
40	アクチュエータ
43	マグネット
44, 45	ホールセンサ

【書類名】 図面

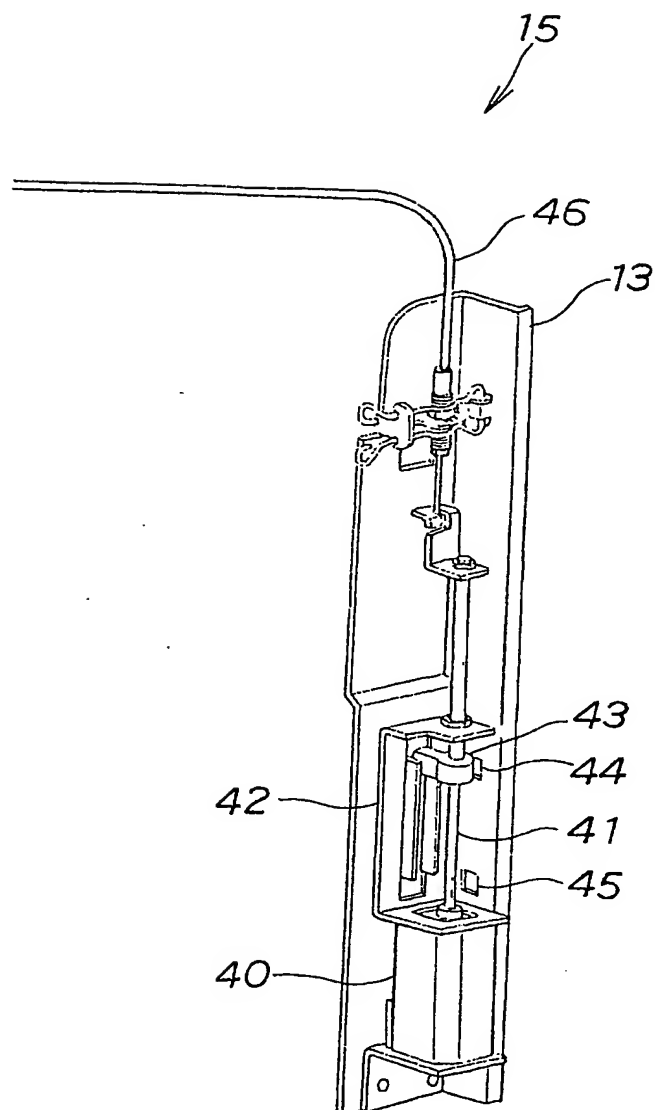
【図 1】



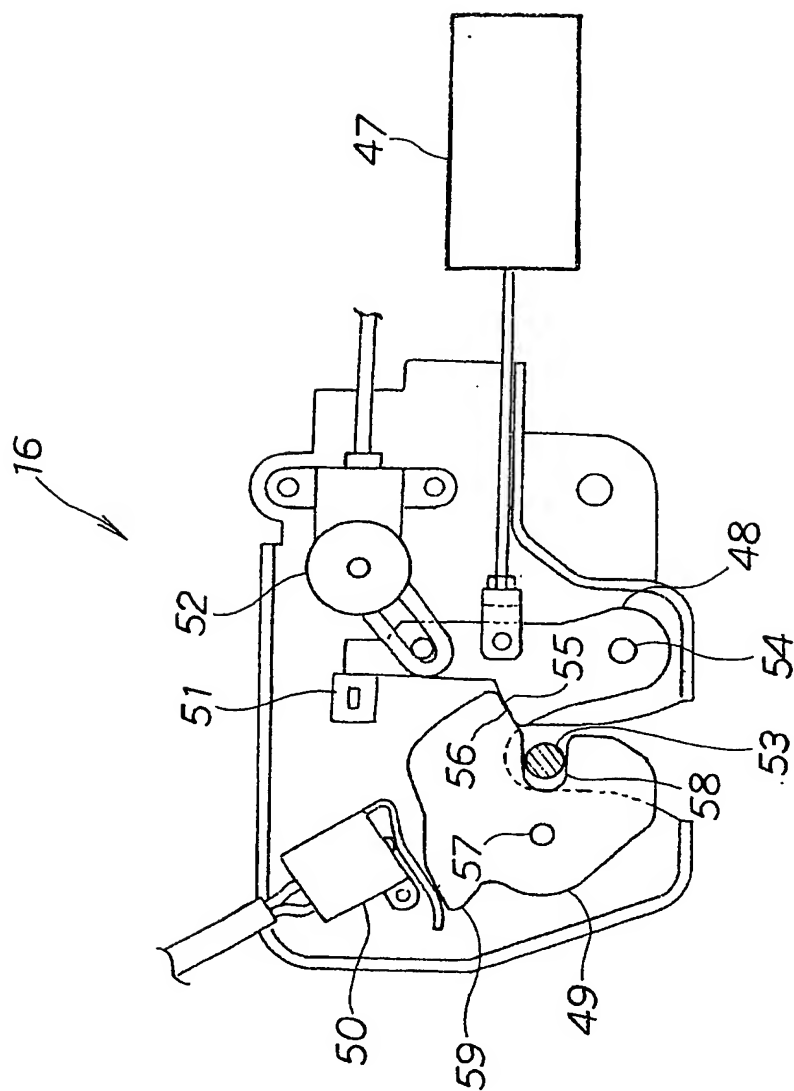
【図 2】



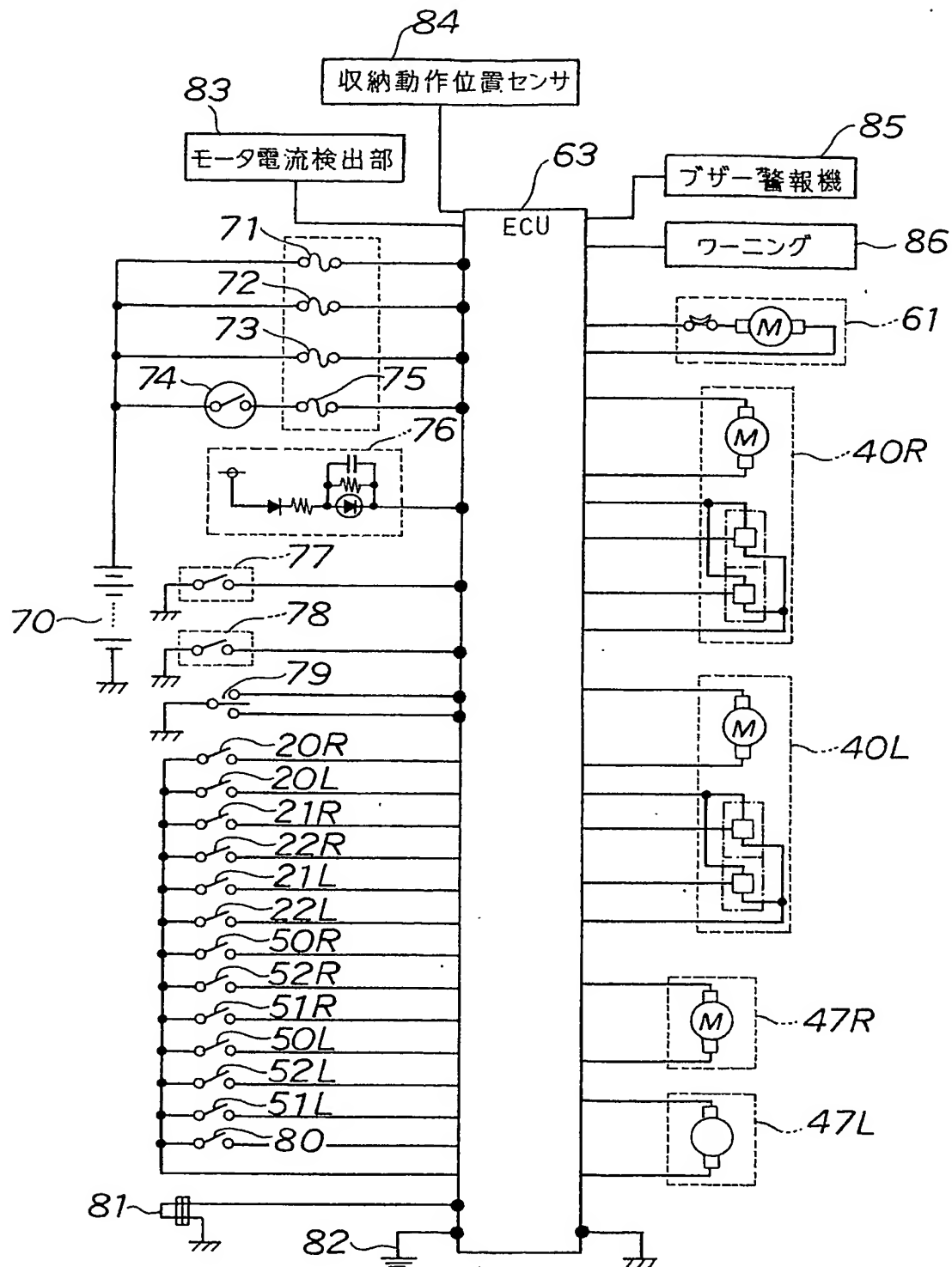
【図 3】



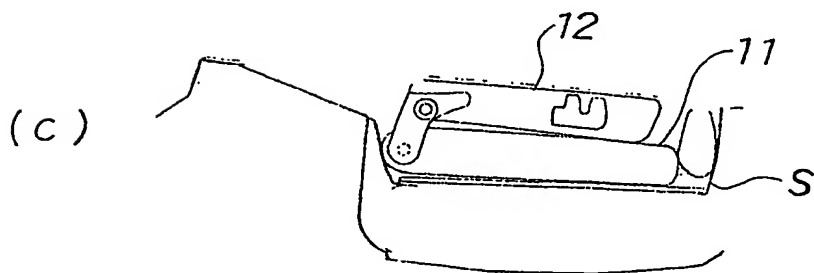
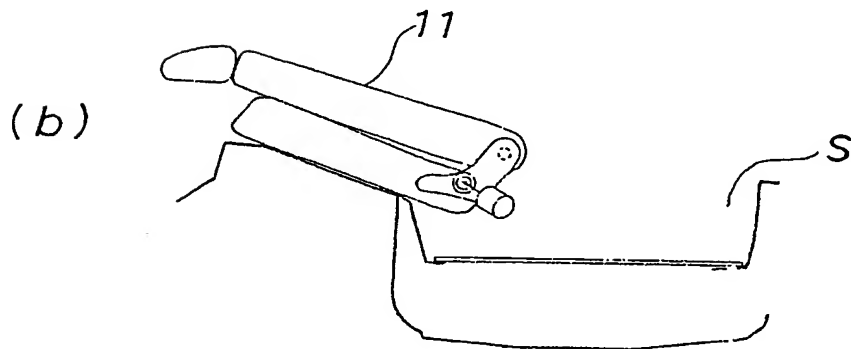
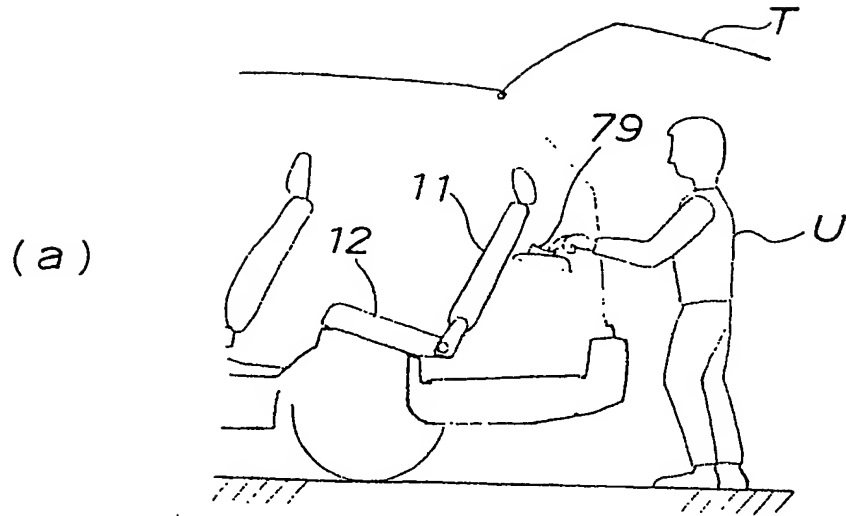
【図 4】



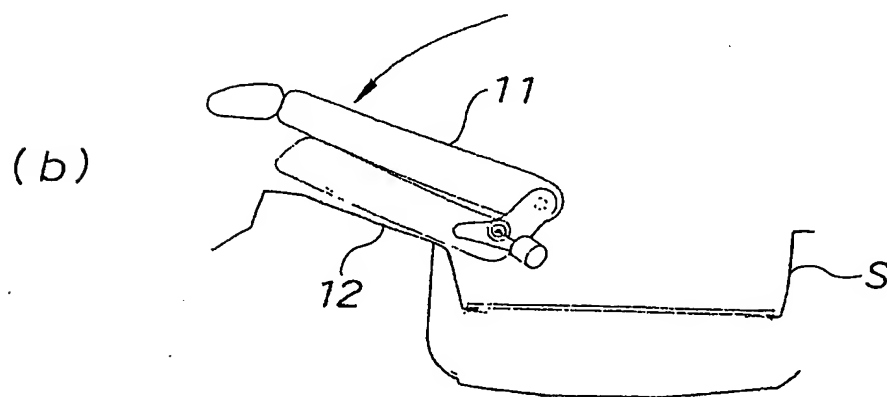
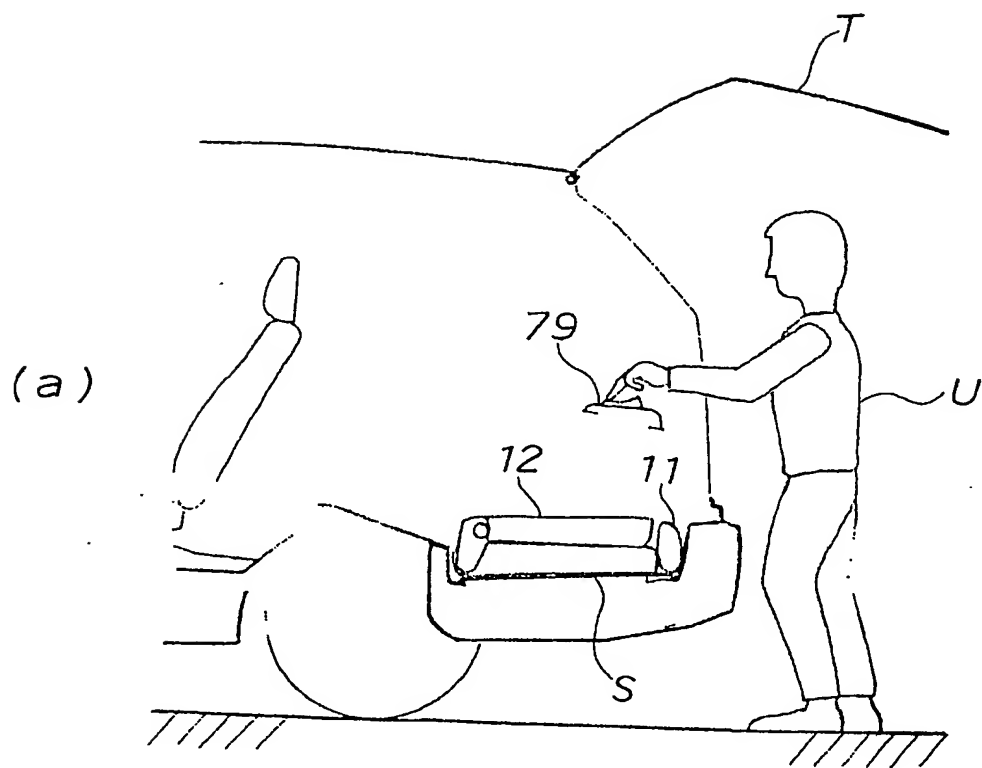
【図 5】



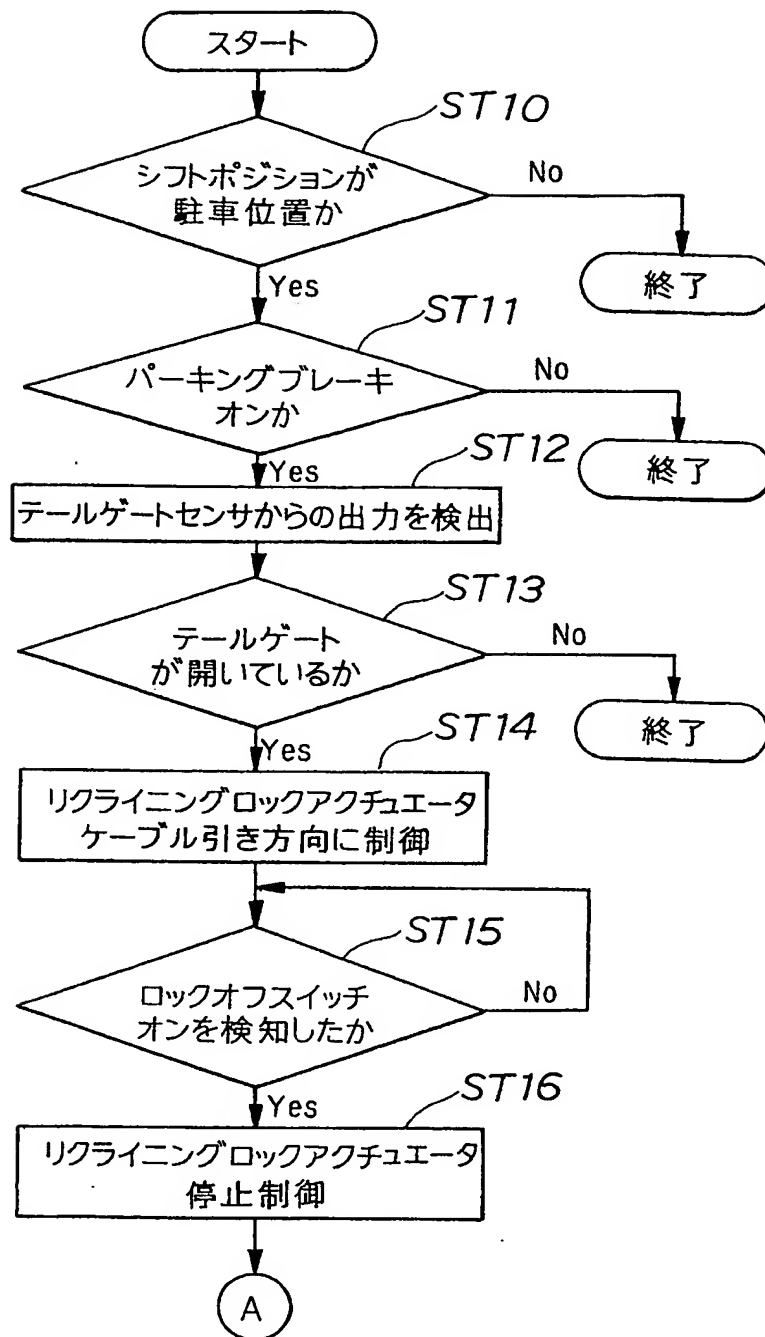
【図6】



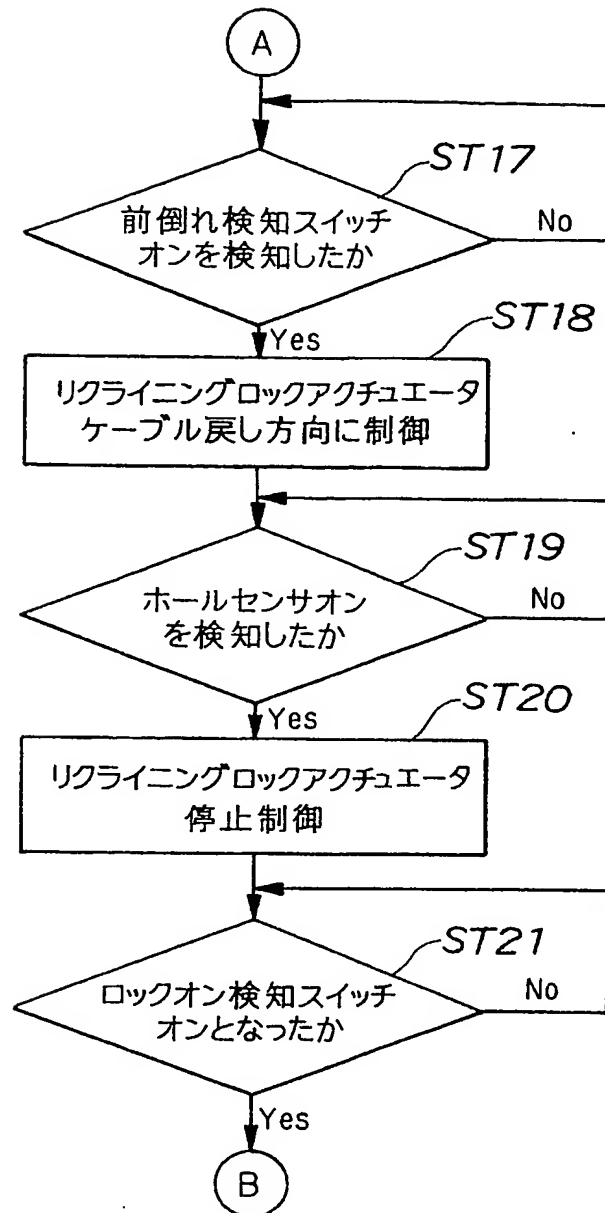
【図 7】



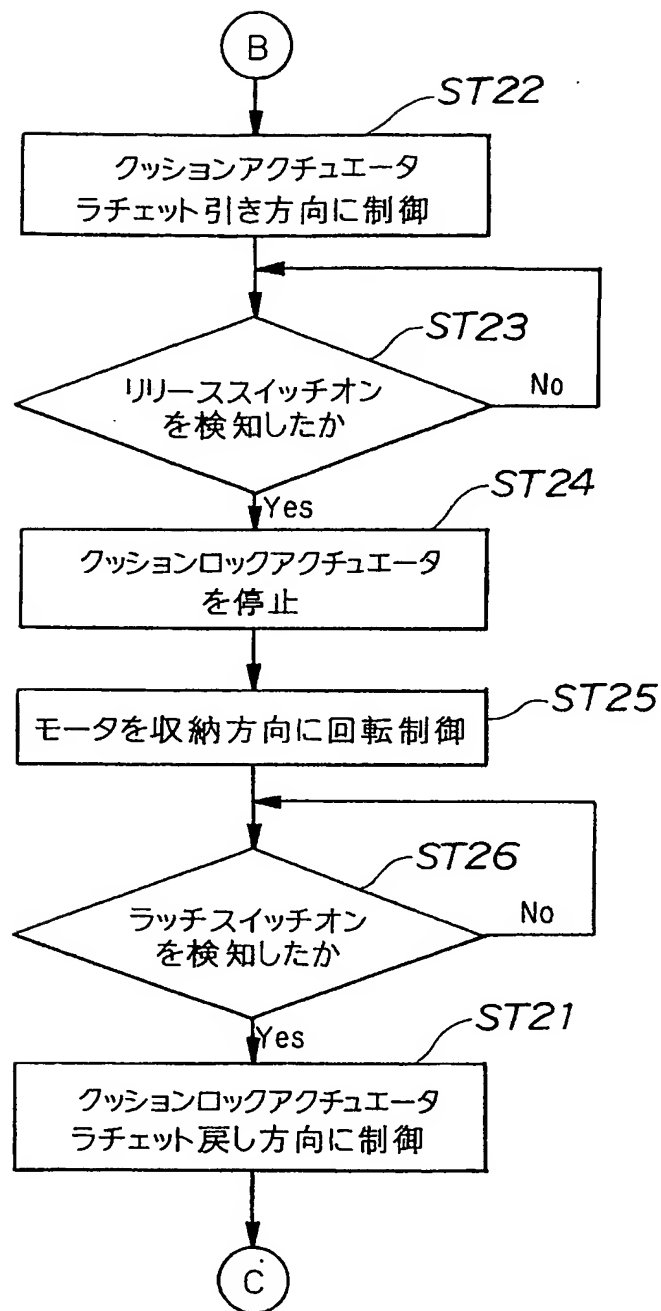
【図8】



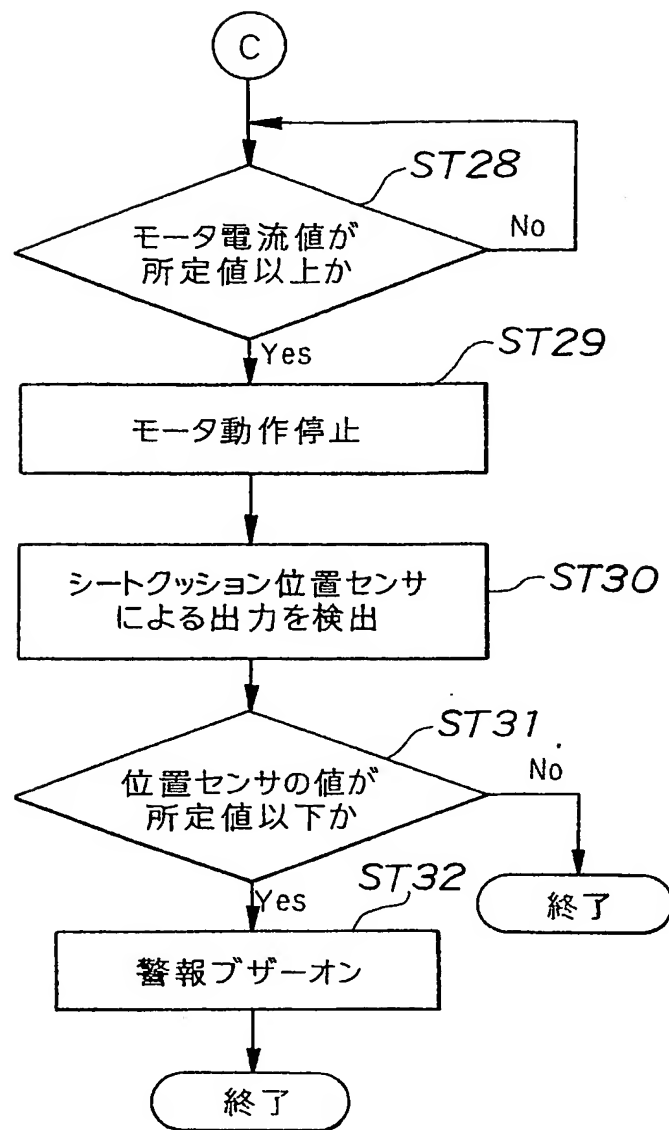
【図 9】



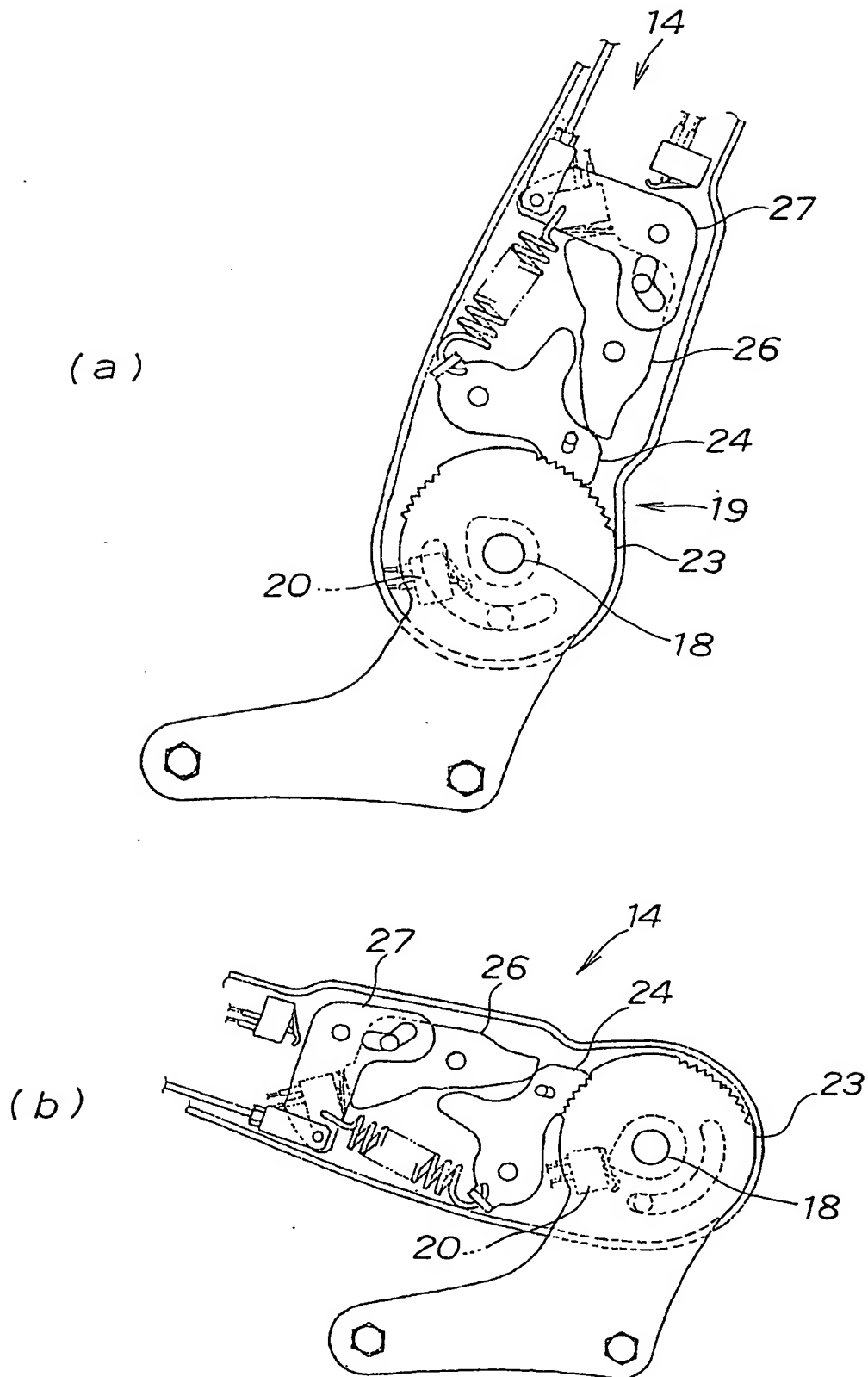
【図 10】



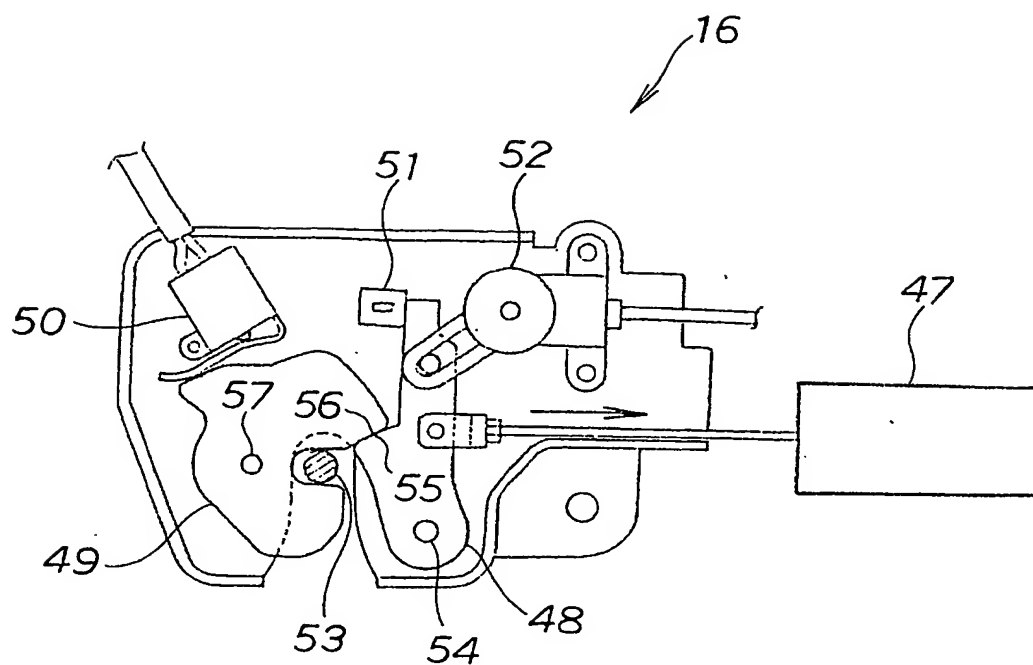
【図 11】



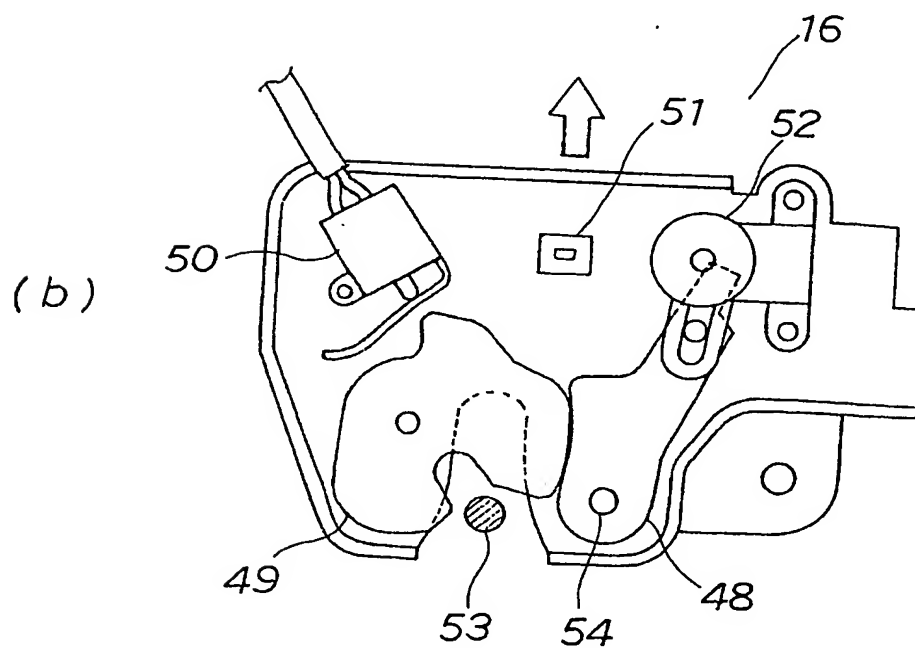
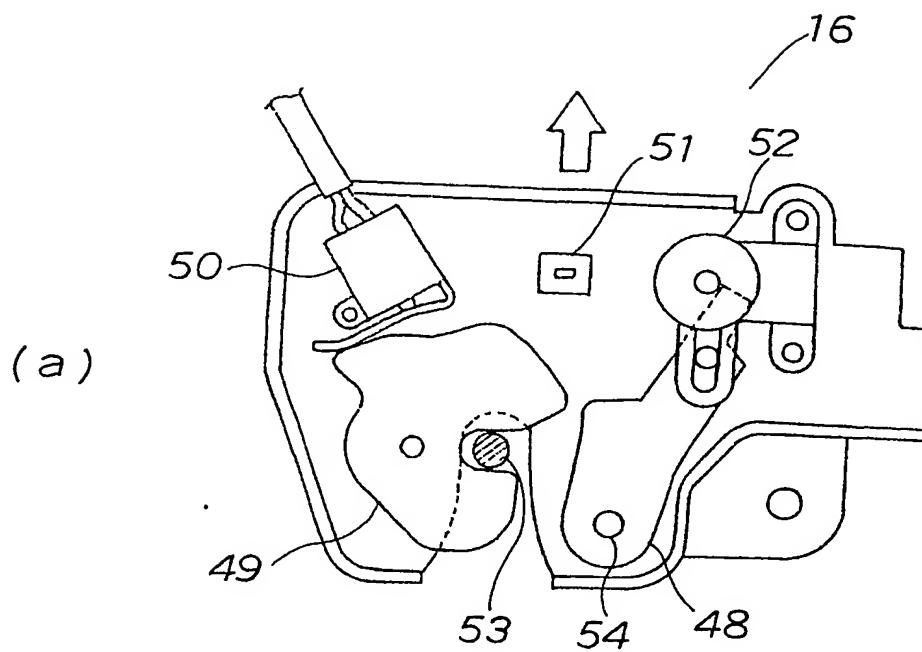
【図 12】



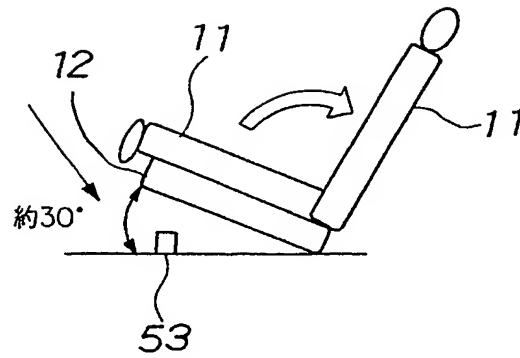
【図 13】



【図 14】

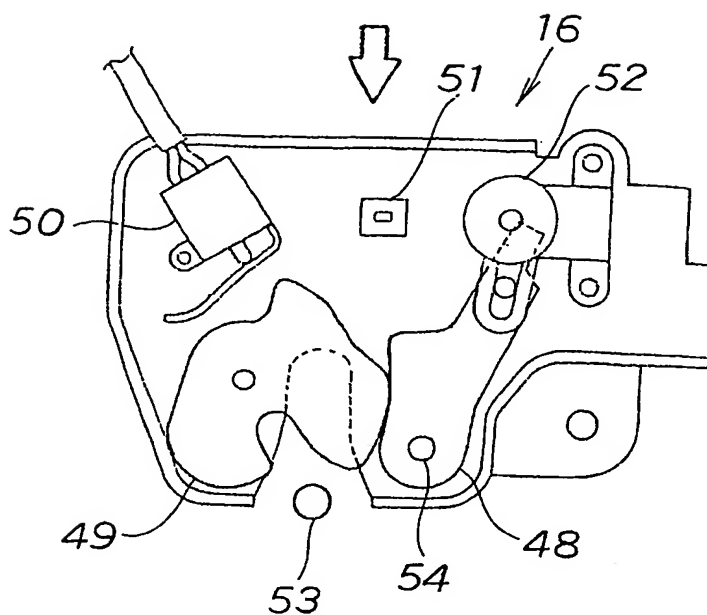


【図 15】

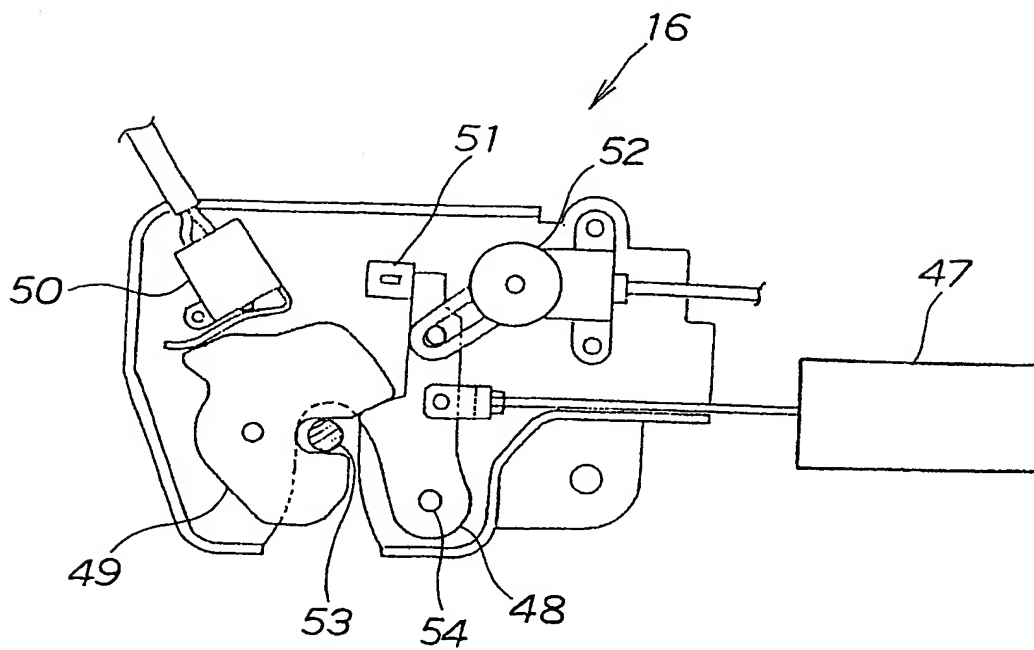


【図16】

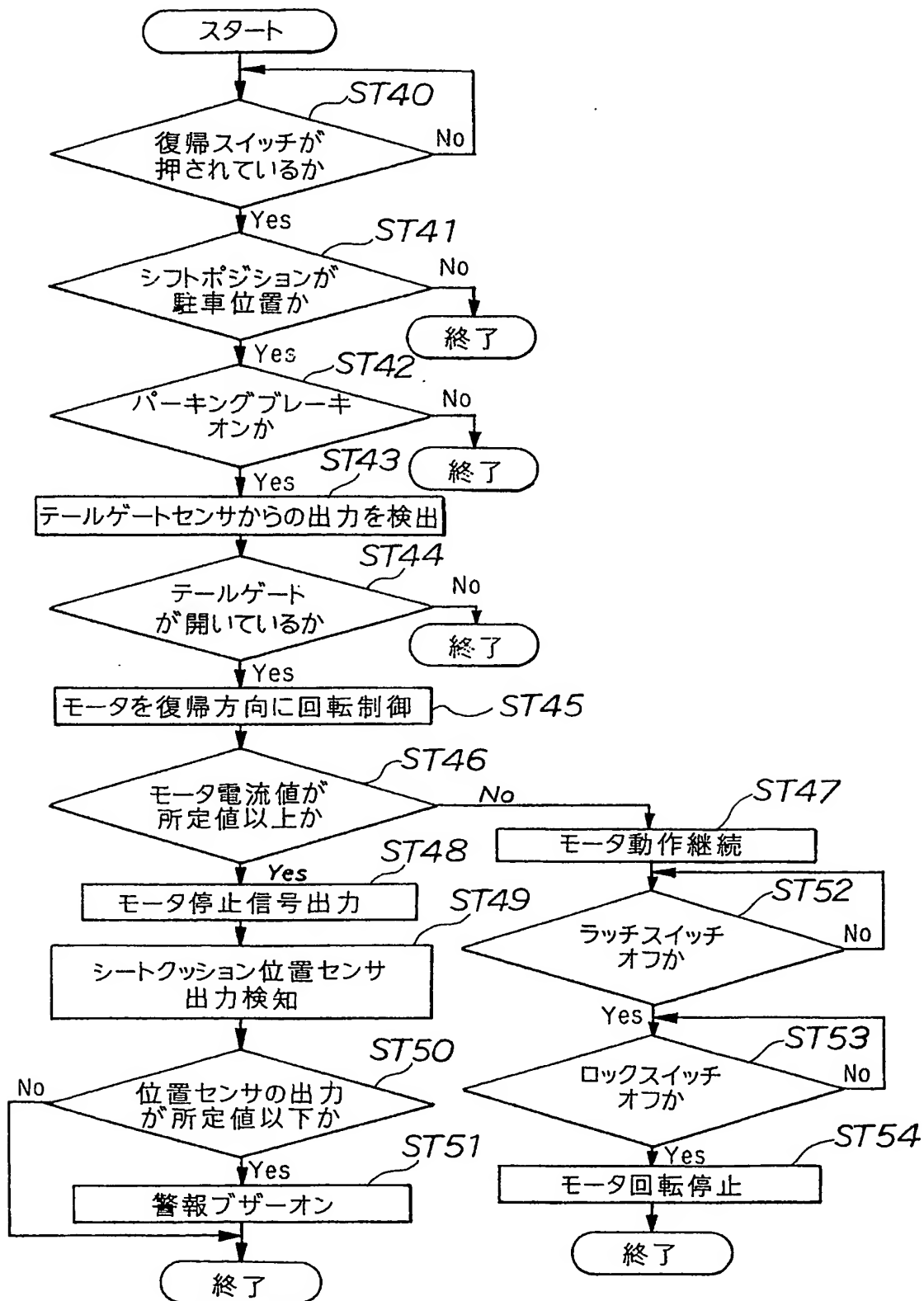
(a)



(b)



【図 17】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 シートの収納作業の労力を軽減するように電動化したシートでの荷物の挟み込みなどを防止した車載用自動回転収納シートシステムを提供する。

【解決手段】 前向き最後尾シートで、シートバック 11 を前倒ししてシートクッション 12 と重ね、シート全体を後方へ揺動して最後尾シート後方かつテールゲート前のフロア収納凹部 S へ収納するための操作スイッチ 79 を、最後尾シートの後方かつテールゲートの開口近傍に配置し、操作スイッチ 79 のオン状態を維持する場合のみ収納動作を進行させ、揺動始点と終点の間の揺動区間内でシートが停止した場合に所定時間警報を発生させる。

【選択図】 図 1

特願 2 0 0 2 - 3 7 8 1 5 4

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [0 0 0 0 0 5 3 2 6]

1. 変更年月日 1 9 9 0 年 9 月 6 日

[変更理由] 新規登録

住 所 東京都港区南青山二丁目 1 番 1 号

氏 名 本田技研工業株式会社

**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- ☐ BLACK BORDERS
- ☐ IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- ☐ FADED TEXT OR DRAWING
- ☐ BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING
- ☐ SKEWED/SLANTED IMAGES
- ☐ COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS
- ☐ GRAY SCALE DOCUMENTS
- ☒ LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT
- ☐ REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY
- ☐ OTHER: _____

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.